

## 不従順な神学生

私は18歳で神学生になり、一か月に一回の養成担当者との面接がありました。その中で養成担当者「何故あなたは、〇〇君たちと遊んでいるのか、〇〇君たちと付き合いなさい」と言われ、困惑したことを最近思い出しました。神学生になっても有難いことに、今まで通っていた教会に毎週日曜日に通うことになりました。交友関係が変わることなく、年下の友達と遊んでいました。淀川に釣りに行ったり、教会の中でおふざけをして怒られたり、同じ年代で大人のようにふるまっている人たちのようにはなれず、ずっと子どものように遊んでいました。そんな私のことを心配した養成担当者は、大人の目から見ると立派な人たちと関わるようにと指導されました。

「修道院に入ると友達まで指示されるものなのか」と思いながら、「それにしても友達というのには指示されて作るようなものなのか?」とも思いました。それを言い渡された次の日曜日、友達が挨拶をしてくれたとき、彼の笑顔の前でどんな顔をしたらよいのかと困惑してしまいました。子どもは大人の期待に応えようとするもので、それができない自分を責めたりするも

## クラレチアン宣教会司祭 梅崎隆一

のですから、未だにどこかで自分を責め続けている自分があります。

それからミサでの献金にいくら入れているのかという問いに「10円入れています」と返答すると「100円入れなさい」という模範解答が返ってきました。うちは家族が9人いて生活保護を受けていたからそれが精いっぱいでした。その習慣で10円入っていたのですが、立派な方からの模範解答の前に自分の心の思いを伝えることは恐ろしいものです。それだけではなく自分の大切な家族が否定されたと感じ、悔しいし、情けないと感じました。レプトン銅貨を入れたやもめのように二枚だったら褒められたのかもしれません。

先輩の神父さんに用事のついでにそんなお話をすると、「それ、うちの母と同じやわあ」と彼の昔話をしてくれました。「あなたは〇〇ちゃんたちと遊びなさい。あそこの部落の人たちと遊んではいけませんよ」と。先輩神父さんには「あなたはいつもマイノリティーのこと考えてるよね」と言われ、できの悪い私を神様が呼ばれた理由はそんなところにあるのではないかと思っています。